

# 学びと実践のための谷まるごと里のいきもの自然保護区プロジェクト

## 一般社団法人自然再生と自然保護区のための基金

一般社団法人自然再生と自然保護区のための基金は、“生物群集の生息地の保全”という考え方を通じて野生生物が生息可能な空間（ハビタット）を拡大させ、生物多様性貢献を図ることを最優先の使命と考え活動しています。

### 【活動背景】

奈良県は、金魚養殖産業の影響により水生の外來生物の移入が多い土地であり、水田の有機栽培面積は全国でワースト5位です。そのため、土地を農業の影響のない水生生物のための安全な生息地として再生する活動が急務となっています。活動開始後、絶滅危惧種であるゲンゴロウ類やモリアオガエルなどの生物多様性が再生しつつあります。

### 【活動目的】

希少な水生昆虫の飛来元、生息地である「つゆ」（水田の中にあるコンクリートで覆われていない大型の排水路）の特性および構造を明らかにし、現在再生中の耕作放棄地の湿地化計画・手法へとフィードバックすることにより、より好適な環境への改善を図っていくことが目的です。



### 【助成金の用途・活動結果】

助成金は、活動に必要な備品購入や交通費に充てられました。今回の活動では、つゆの現地スクリーニング及び、つゆの再現実験を行いました。また、つゆの水生生物の生息地としての機能に関する調査を行い、生態系に関する普及イベントにて研究結果を発表しました。これらを通して、つゆの構造及び分布の概要を把握することができました。「つゆ」ありの水生生物種数は「つゆ」なしと比較して1.6倍あることが判明しました。

### 【団体からのメッセージ】

希少な水生昆虫が生息している「つゆ」は、水生生物の天国のような場所で、水田の中にあります。一見、ごく普通の水田に見え、一般の方の中には（どうせ農薬を使っていて生物などほとんどいない）と思われる方もいらっしゃるでしょう。けれど水田に降りて観察すると、そこには湧水があり信じられないほど多様な生物を見ることができます。そのことは、農家の方さえ認識していません。機械に乗って作業しているからです。「つゆ」は農業と生物多様性の両立した素晴らしい施設であり技術です。ぜひ多くの方に知っていただきたいです。

